



子どもの笑顔が輝き

勢いのある学校

No. 32 (H29. 12. 14発行) 文責 校長 福田雅也

企業の考え方に学ぶ

数年前、ある研修会で県内の企業経営者の方の講話を聞く機会がありました。そのなかで、とても印象に残ったことの一つが、「現代の企業は、利益を追求することだけでは成り立たない。お客様はもちろん、関わる人間すべてが幸せになれることを目指さなければならない。」という内容でした。具体的には、社員の幸せや満足感、社会貢献等が必要ということだと理解しました。その一例として、〇〇百貨店(熊本県内の百貨店)の取組を少し話されましたので、研修会の後自分でもちょっと調べてみました。

〇〇百貨店には、「百年後を見据えた改革と挑戦」として、2012年から社内で行われている「〇〇イノベーションプロジェクト」という改革プロジェクトがありました。その中で企画されたのが、従業員参加型の特別展「人とモノのものがたり展」というものだったそうです。入社3年目の従業員の発想「人こそが〇〇の価値である」という気づきを大切にした企画になっていたそうです。展示内容の一例、女性従業員と包丁のものがたりを綴った「プロポーズの“切れ味”」では、プロポーズの際に、「これでずっと美味しいご飯を作ってほしい。」…この言葉でプロポーズされた女性が、その時の驚きと嬉しさを語っています。(もちろん、包丁は〇〇の商品です)展示の写真には、本人だけではなく、その家族や友人仲間が登場し、その従業員のあたたかい人となりや伝わる内容になっていました。商品やサービスをPRするのではなく、それに関わる「人の心や人そのもの」をPRしているのです。また、そのことが、従業員自身の満足感や職場への誇りにつながっているようです。そして、それらのことが、結果として企業の利益につながるという考え方であることが理解できました。

甲佐小に置き換えてみるとどうなるでしょう。従業員はもちろん「本校の職員」、お客様が「子どもたちや保護者の方々」となるのでしょうか。そうであれば、「保護者の方々のご期待に応え、子どもたちの健やかな成長を目指すだけではなく、職員や地域の方々の幸せや満足感を目指す」べきなのです。また、「社会貢献」の部分は、地域の方々にも参加いただいている「コミュニティ・スクール」の取組があてはまるのではないかと考えられます。企業の考え方とはいえ、方向性としてはとても参考になるものです。問題は、〇〇では「人とモノのものがたり展」等となって実現した具体的な取組をどのように行うかだと思います。

ひらめきのない頭で考えていますので、たいしたアイデアは出てこないのが残念ですが、まずは、子どもたちや保護者の方々はもちろんですが、職員も大切にし、コミュニティ・スクールの取組を充実させることから何か広がらないかと取り組んでいるところです。